



ごあいさつ

台風19号、さらに台風21号による記録的な大雨は各地に甚大な被害をもたらしました。被災された方々は生活の基盤を奪われ、未だ先の見えない不安を抱えたままであると思います。被災されました皆様には衷心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧復興をご祈念申し上げます。

当市においても、石打の五十嵐橋上流左岸の石打発電所付近の護岸と、姥島橋の100m位下流右岸の護岸に被害が出ました。その他一之沢林道ははじめ一部土砂が崩れたところもありましたが、人命に関わる事案が起きなかったことに安堵致しました。なお避難所には、557名の方が避難されました。

令和元年9月議会が、9月2日から20日まで開催されました。平成30年度一般会計決算認定をはじめ21の議案、2つの報告、1つの陳情、2つの発議について審議致しました。全ての議案と報告は承認・可決認定されました。

南魚沼市議会議員 目黒哲也は、一般質問を行い皆様のお声を市政にお届けいたしました。

◎質問と答弁は以下の通りです。(一部抜粋)

右のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になれます。



一般質問

『南魚沼市のガストロノミー振興について』を質す

市長答弁

「雪国特有の自然風土から生まれた食文化とお酒を中心に、更にこれまで知られていない食資源なども探しながら、地域の民間事業者と連携をして食文化を発信する」

目黒 新潟県・庄内エリアの両地域が共通する「食」「酒」等の魅力を中心に、食を育んだ歴史や伝統、暮らし、風土といった背景と食で地域のストーリーを伝える、仕組みづくりを日本海美食旅（日本海ガストロノミー）として進めていく「新潟県・庄内エリア デスティネーションキャンペーン」が、10月1日より12月31日の3ヶ月間にかけて展開をされる。

この「デスティネーションキャンペーン（DC）」の「Destination（デスティネーション）」とは旅の目的地や行き先のこと。北海道から九州までのJR旅客6社が、現地の自治体や観光会社、旅行会社などと協力し、地域の新たな観光素材をPRし、誘客する大型キャンペーンである。通常3カ月ごとに対象となる地域が移り、春夏秋冬を通して日本各地で続けられている国内最大級の観光キャンペーンである。

続いて「ガストロノミー」とは、ガストは「胃」を、「ノミー」は「方法」「学び」を意味し、「美食学」と訳されている。食を旅の主目的に置き、ただ食を楽しむだけでなく、その土地の風土や伝統が織りなす食文化を丸ごと体感することである。

今や世界的なローカルシフト（地方回帰）やヘルシーブームの追い風を受け、食に対する関心は世界的に高まっており、かつて料理業界では美食という意味合いが強かったガストロノミーも、現在では食の多様化を楽しみ、生産地を訪れ、農家体験や料理体験などを行うツーリズムの分野として地方創生の大きな役割を果たしていくものと期待されている。

このDCの機会を最大限に生かし、その効果を短期的なものではなく、その後に続くものとしていくことが重要であり、官民が一体となった体制を構築し、効果的な事業展開に取り組むことで、DCを契機とした更なる交流人口の拡大に繋げていく絶好なチャンスの時であると考え。そこで南魚沼市におけるガストロノミーの展開は如何に。

市長 このDCキャンペーンは当市においても大きなPR効果の機会である。本気井も盛り上がり、非常に大きなはずみになるのではないかと考えている。南魚沼市にとっては長い冬を越えるために発達をした、発酵、そして保存食、そして雪国ならではの独特な食文化がある。近年ではそのコメ麹を使った発酵食品などに人気が集まり非常に知名度が上がってきている。

また現在、雪国特有の自然文化、風土、文化、暮らしなどメディアを通じて発信が行われており、雪国ブランド化は着実に浸透してきているのではないかと。

まだまだこれまで知られていない食資源なども探しながら、いろいろなことを模索しながら地域の民間事業者の皆さんと連携をして、この食文化を発信するガストロノミーの展開をしていきたいと考えている。

産業振興部長 私たちはDCを長期的な目で見ていて、今回新潟DCは10月から12月であり、来年4月から6月はお隣であり、雪国観光圏の関係もある群馬県がDCなので、そこはまた連携していきたい。その後、2020オリパラがあり、そして10月から12月はアフター DCとつながる。そこにどうやってつなげていったらいいかと線で考えている。

目黒 欧米では、既にガストロノミーツーリズムの概念が浸透しており、食を地域資源とし、世界的観光地として認知されている地方都市は多数存在するが、そのトップランナーと言われている街がサン・セバスチャン。ガストロノミーツーリズムに焦点を当てた様々な施策を、1990年代後半から官民一体となって展開し、料理大学の設置、地域のシェフたちがお互いのレシピをオープンにする仕組みなどを作り、切磋琢磨して調理技術向上に繋げるなど、今や連日、外国人観光客で大変な賑わいとなっている。かつて観光資源は特になく、この地を訪れる観光客は低迷していましたが、ガストロノミーツーリズムの概念を街中に浸透させ、わずか10年で世界的観光都市へと変貌を遂げた。そこで当市において観光に必要とされる人材群とその育成は如何に。

市長 平成21年NHK大河ドラマの天地人の放映後、継続して官民で地域おこしとかシティプロモーションを推進するために、アフター天地人の取り組みを展開してきた。その中から「食によるまちおこし」が生まれ、その最たる牽引役になったのが「きり

ざいDE愛隊」の皆さんだったかと私は思う。その活動の中から現在では、県内外との多様なネットワークの形成につながってきており、これらを基にして本気井も進められているという成功例がある。他をみれば、例えば最近では熱海、湯布院の中におけるやる気のある民間プレーヤーがキーマンとなり、観光地でいろいろな活性化が進められている。他にもインフルエンサー、発信力のあるブロガーの方々も有効である。

先ずは、ここに住んでいる人間がどんどんやること。それから外部の皆さんの力を借りることが必要ではないか。内なるものと外なるものの人材群というものがあるのでは。そういったことを着実に進めていく中で、それそのものが育成につながっていくと思う。

目黒 かつて国交省は全国で観光振興を成功に導いた人物を「観光カリスマ」として百名弱を選定した。新潟県からは4名が選出。その4名のカリスマが「にいがた観光カリスマ」として認定され、新潟県観光振興の核となる多様な人材を選出して、「にいがた観光カリスマ連絡協議会」を立ち上げて活動している。当市も国や県と連携し、南魚沼版観光カリスマを選定し、観光振興を図っていくのはどうか。観光業に限らず、市内には、素晴らしい農業や工業等々の人材がいるので幅広く選定することをお勧めしたい。

市長 当市は、人材が多く、県でもすごく認められている。いろいろな人たちを巻き込んで取り組んでいくことは大事であるので、観光カリスマ南魚沼市版といった母体もいいと思う。しかしそういう仕掛けていく集団が議論だけ尽くしていてもだめで、まとめ上げるということが大事。観光課があったり協会があったり、その上にまたそういう人的なシンクタンクをつくっていくと、ではどこが決めるのだという本筋の部分と本当にその施策実行をきちんとやるというプロセスをつくることも同時に考えていかなければならないのでは。

それよりも自治体ごとに観光が区切りになっていることが一番の問題だと私は思う。姉妹市のオーストリアは州法による観光法もあって、それに支えられる形でベッド税の宿泊税が整備をされており、完全に持続可能な地域づくりの形成、観光づくりをきちんと補完をしながらずっと持続させながら発展している。それぞれ自治体で区切られた観光協会とかあるのを合併していくことが先。そこを躊躇してできなかったところが全部沈んでいく。既に自治体の境界線を突破できる、一番最初はやはり本当は観光であるはずで、まだそこに至っていない我々は必ず取り組まなければいけない大きな方向性だと思っている。

目黒 観光地のゲートウェイである六日町駅前ロータリーですが、以前にも質問をさせて頂きましたが、交通事業者にとっても、市民にとっても、観光関係者等の事業者にとっても利便性の良い計画について、その後の進捗を伺う。

市長 路線バス事業者が停留所及び待機所として、タクシー事業者がまたこの乗降所及び待機所として決められた区間を使用している。それ以外にも病院とかホテル旅館の送迎バス、また一般市民の送迎車両も利用している。隣に送迎用のスペースがあるが車が横付け出来ないで利用が少ない。ただ、駅前ロータリーの使用方法、使用区間の変更等申し入れをしているが現在ロータリーを使用している交通事業者の理解と協力が不可欠であって、なかなか前に進まないというのが現状である。

目黒 前回も言いましたが、せめて今のタクシーの停まっている部分を向かって左側の現在の送迎スペースに移し、現在のタクシー待機所を市民と事業者の送迎スペースに出来ないか。

市長 まだ現在、タクシー業界とは相談はしていない。あの区割りはあるのままでいいのかとかいろいろ思いはある。お年寄りが増え、足の問題や免許証の返納の問題等あるのでどんな障害とかハードルがあっても必ず議論していかなければいけない。

目黒 かつて大きな看板があった土台が残っているが、必要なのか。

産業振興部長 必要かと言われると今正直何も必要性はないが、あれがあることによってロータリーの曲がり角がスムーズに行くという側面もあるのではないかと考えている。

裏面へつづく→→→

第1回南魚沼市議会臨時会議開催

11月6日に臨時議会が開催され、小澤実議長が再任、副議長には鈴木一議員が新任致しました。私は総務文教委員会副委員長を2年間務めさせて頂きましたが、この度、社会厚生委員会に変わり、副委員長に選任されました。

去る9月22日に、浦佐駅に観光案内所「ミュウ」が新たにオープンし、観光振興に期待するところであります。

現在、全国各地で「食によるまちおこし」が行われています。なぜ「食」なのかといえば、それは「地域の食」が、風光明媚な自然や荘厳な寺社仏閣よりも、旅行者が求める観光資源であるからに他なりません。

2018年、観光庁発表「訪日外国人観光客消費動向調査」（別表）によると、外国人観光客が「訪日前に期待していたこと」に関するアンケート調査で、和食、景勝地観光、伝統文化体験、旅館宿泊、温泉入浴などが上位に挙がっていますが、中でも和食は第1位であります。

また訪日外国人の食事総額は9,800億円で年々増額しており、日本の外食産業に大きな影響を及ぼしています。和食は世界の主要都市にてブームになっており、さらにはユネスコの無形文化遺産に指定されたことによって、訪日外国人観光客に大きなニーズがあり、地方都市にインバウンド誘致を進める場合、食文化と日本文化の組み合わせは、重要なキーワードのひとつになると考えます。

現代の旅のニーズは、「モノ」を推し、売る時代から、わざわざ旅してまで食べたい「コト」と「トキ」に変わってきております。当市は、南魚沼産コシヒカリの産地であることは言うまでもなく、雪と共存する食文化を持ち、たくさんの発酵食、保存食が今も生活に息づく質の高い食文化があります。

加えて、いにしへの昔から日本人を癒やし、憩いの場となってきたのは温泉地であり、当市の六日町温泉は、国民温泉保養地として認定されるように湯量は豊富で質の高い泉質であります。

郷土料理や地酒、あたたかいおもてなし、更には歴史や文化、そして景観など食や自然・文化をたのしむ「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」を展開して南魚沼をまるごと「めぐって」「たべて」「つかって」、じっくりと魅力を感じてもらう観光振興はどうでしょうか。

また当市がガストロノミーツーリズムに取り組むメリットとして、新たなインフラを作らなくとも地域の魅力を伝えることができ、取組次第で魅力的な観光地として成長できると考えます。

日本文化の源は地域文化にあり、地域文化が育んだ飾り気のないそのままの風情が特色であり最大の資源でもあります。自然の恵みと汗した努力が郷愁を呼び、今見直されているような気がします。

当市には、まだまだ磨かれず眠っている観光素材がたくさんあると思います。地域を深掘りし、素材を磨くことによって、地域のことを知ることに繋がります。磨かれた素材は、観光素材となり、関連する産業と結びつけると多彩な連携ができるようになると思います。

人は、1つの素材だけだと、そのままをいいなと感じ、2つの素材が揃うと凄いと感動し、3つが揃うと、外からみると途方もなくみえる程驚きを感じるようであります。

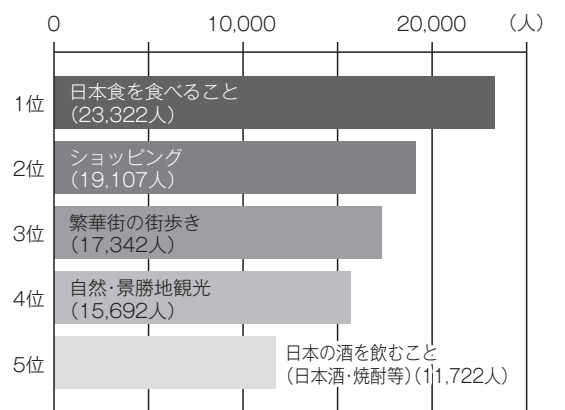
その特徴から考えると、キーワードは、「つなぐ・重ねる・組み合わせる」であると考えます。資源・分野・地域・人をつないで、それぞれを重ねて、多様に組み合わせていくことで輝きが生まれ、その輝きが面となって地域を輝かせ、魅力ある観光地を創り出していくのではないのでしょうか。

「観光地づくり」ではなく、「地域づくりのための観光」という考え方はきれいごとの話ではなく、観光「そのもの」のみならず、観光の視点を通した諸課題の解決が、地域の魅力の向上につながり、更に地域の人たちが連携するようになり、つまり観光によって地域を元気にすることが出来る、まさに「まちづくり」になっていく重要な施策のひとつであると考えます。

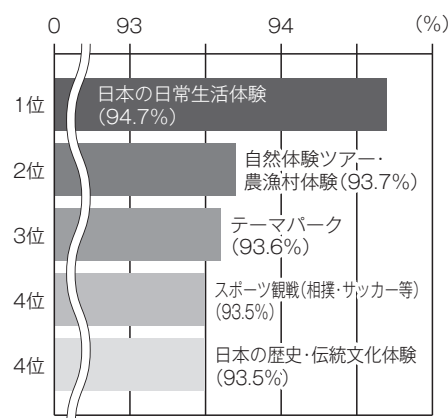
訪日外国人観光客消費動向調査

（観光庁2018年発表）

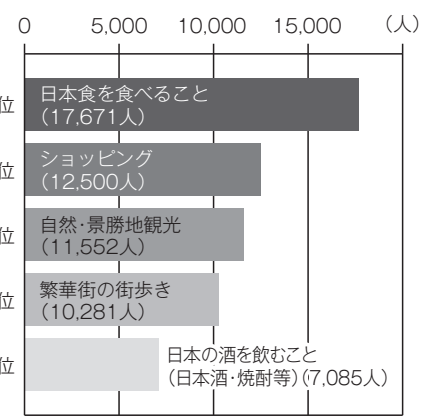
●今回したいこと



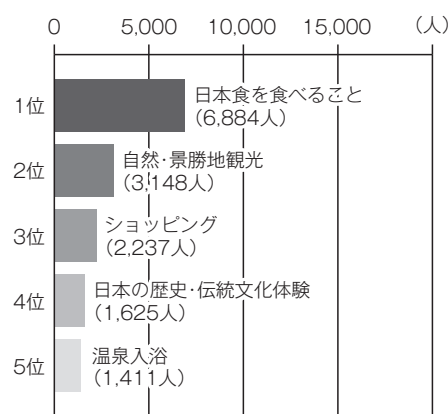
●今回した人のうち満足した人の割合



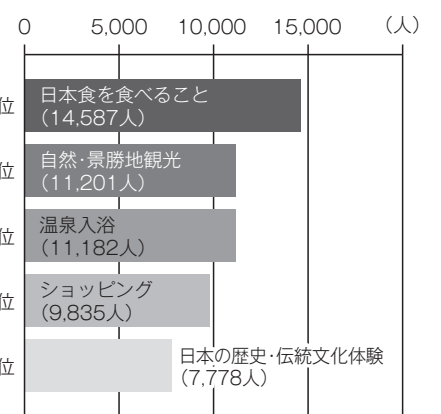
●訪日前に期待していたこと



●訪日前に最も期待していたこと



●次回したいこと



一緒に
学びましょう！

講演会のご案内

「奈良県明日香村での耕作放棄地の再生活動から学ぶ」

講師 **大西 藤夫氏**
(日本再耕 明日香プロジェクト)メンバー・農家)

日時 **11月13日(水)**
懇談会:18～19時
交流会:19時～

会場 **金誠館(南魚沼市坂戸1-12)**

耕作放棄地の再生を通して、地域づくりを目指している姿に学びます。

「南魚沼の未来を考える～農業と移住定住～」

講演① **「半農半経営を極める」**
講師 **平松 庚三氏**
(元ライブドア社長)

講演② **「お米づくりへのあくなき追求」**
講師 **本多 義光氏**
(お米コンクール6冠完全制覇の米作りの名人)

日時 **11月25日(月)** 講演会:18時～
会場 **金誠館(南魚沼市坂戸1-12)**

会 費 懇談会・講演会:無料
交流会:5,000円

お問合せ・申込み 「未来への架け橋の会 南魚沼」 目黒哲也 まで

TEL 090-4011-7563 FAX 025-773-3039